

平成30年度大学院説明会 (入学希望者向けガイダンス)



2017年5月27日(土)15:00-17:30

東京大学大学院医学系研究科
公共健康医学専攻
専攻長 川上憲人
kawakami@m.u-tokyo.ac.jp

1

公衆衛生学とは

- “Public Health is the art and science of preventing disease, prolonging life and promoting physical and mental efficiency through the organized community efforts...” (組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的、精神的機能の増進をはかる科学であり技術である) Winslow CEA *Science* 1920; 51(1306): 23-33.

2

“Protecting Health, Saving Lives, Millions at a Time” (健康を守り、命を救おう、たくさんの人を一度に)

米国Johns Hopkins公衆衛生大学院のホールのパネル

3

公共健康医学専攻の目的

本専攻は、国民や地域住民、患者も含めた広範な人々の健康の維持、増進、回復及び生活の質(quality of life)の改善に寄与する最先端の研究を推進するとともに、公衆衛生領域で指導的及び実践的役割を果たす高度専門職業人を養成する。本課程の修了者には、公衆衛生学修士(専門職)が授与される。

4

求める学生像

- 国民や地域住民、患者も含めた広範な人々の健康の維持、増進、回復及び生活の質(quality of life)の改善に寄与する最先端研究を推進するとともに、公衆衛生領域で指導的及び実践的役割を果たす高度専門職業人として活躍できる人

研究・理論 × 実践力

5

公共健康医学専攻の特徴(歴史)

- ◆ 当該分野における東京大学の「強み」
- ◆ 日本最初の公衆衛生学講座
1947(昭和22)年設置
- ◆ 日本最初の保健学の大学院
1965(昭和40)年開設
- ◆ 大学院重点化
1995(平成7)年 社会医学専攻
1996(平成8)年 健康科学・看護学専攻
- ◆ 公衆衛生の専門職大学院(公衆衛生大学院)
2007(平成19)年 設置

6

教員組織の特徴

- ◆ 専任教員(現員)28人(実務家教員6人を含む)
- ◆ 疫学保健学系
数量的分析、コミュニケーション手法
- ◆ 行動社会医学系
行動科学、社会科学的方法論
- ◆ 医療科学系
制度、システム、情報の応用
- ◆ 協力講座
健康・環境医工学(疾患生命工学センター)
医療安全管理学(寄付講座)

7

公共健康医学専攻 (School of Public Health)

(専門職学位課程)
公共健康医学専攻

疫学保健学講座 (Epidemiology and Health Sciences)
 生物統計学 (Biostatistics)
 社会予防疫学 (Social and Preventive Epidemiology)
 臨床疫学・経済学 (Health Economics and Epidemiology Research)
 医療コミュニケーション学 (Health Communication)
 がん疫学 Cancer Epidemiology

行動社会医学講座 (Behavioral Health Sciences)
 精神保健学 (Mental Health)
 健康教育・社会学 (Health Sociology and Health Education)
 保健社会行動学 (Health and Social Behavior)
 健康増進科学 (Health Promotion Science)
 医療倫理学 (Biomedical Ethics)
 保健医療人材育成学 Human Resource Development for Health

医療科学講座 (Health Services Sciences)
 健康医療政策学 (Health Policy)
 医療情報システム学 (Healthcare Informatics)
 臨床情報工学 (Clinical Information Engineering)
 法医学・医事法学 (Forensic Medicine and Medical Law)
 保健医療科学 Public Health Science

(協力講座) 疾患生命工学センター・健康環境医工学
 (協力講座) 東大病院寄付講座・医療安全管理学

8

東京大学医学部教育研究棟 (同棟13階にSPH講義室・学生控え室)



9

公共健康医学専攻の特徴(カリキュラム)

- ◆ 2年コースと1年コース(定員計30人)
実務経験者向けの1年コース
- ◆ 多様な科目
必修科目と選択科目の組合せ
- ◆ コースワーク・フィールドワークの重視
講義・演習・実習の組合せ
- ◆ 課題研究(2年コース必修)
教員による実務・研究指導

10

公共健康医学専攻の授業科目

- ◆ 必修科目
 疫学 「疫学研究と実践」が「医学研究のデザイン」
 統計 「医学データの統計解析」
 行動・社会科学 5教科から2科目選択
 医療管理 2教科から選択
 環境保健 2教科から選択
 上記6科目(計11単位)を指定
 課題研究(2年コースは必須)

11

公共健康医学専攻の授業科目

- ◆ 選択科目(必修科目を含め30単位取得)
 臨床疫学、臨床医学概論
 日本の医療と地域保健(英語)
 社会と健康 I・II
 合併科目:国際保健政策学特論 I・II(英語)
 インターンシップ(夏、春)
 など、多様な授業科目を用意(※1年間の単位取得上限50単位)
 他専攻・他研究科の科目は合計で8単位まで

12

修了者の進路

高度専門職業人として

- ◆ 公衆衛生行政、国際機関など
- ◆ 臨床研究・EBM、臨床試験の専門家
- ◆ 民間シンクタンク、NGO等の専門家
- ◆ 病院の医療経営・情報システムの専門家

研究者として

- ◆ 博士課程進学、教育研究機関など

19

修了者の進路（過去9年間の実績）

1年コース98名、2年コース173名

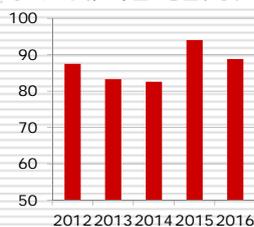
- ◆ 医療機関 25%
- ◆ 行政・独法・国連機関 12%
- ◆ NGO・シンクタンク・企業 19%
- ◆ 大学・研究所(教員・研究者) 9%
- ◆ 進学(博士課程) 35%

(進路不明・修了時未定者を除く)

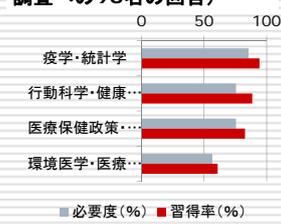
20

修了生による教育の評価

高い修了時満足度：もう一度、入学前の状態に戻り、大学院に進学するとしたら第1希望で志望する(%)



修了後の専門知識の必要度と習得率(2015年全修了生調査への96名の回答)



さらに公衆衛生リーダーシップを求める教育へのニーズが

21

東京大学公共健康医学専攻のHP (専攻HP) (同窓会HP)



22

入試試験科目の変更について(平成30年度入試から)

- 「健康科学・社会医学一般」を廃して、「公共健康医学基礎」を新設。公衆衛生学についての基礎的な問題(択一式20問)を出題。
- 「専門分野」(論述問題)に医療情報システムを追加し選択数を3問から4問に変更。
- 「小論文」を2年コース志望者にも課す。
- 「統計学一般」には変更なし
- 以上は専攻HPでも周知。

23

公共健康医学専攻と関連した博士課程

<http://www.m.u-tokyo.ac.jp/daigakuin/apply/appguidemain.html>



願書受付: 平成30年1月4-10日
入学試験: 平成30年1月31日、2月5日



願書受付: 平成29年7月19日~28日
入学試験: 平成29年10月19~20日

24

健康科学・看護学専攻(博士後期課程) パブリックヘルスプログラムとは

- 健康科学・看護学専攻(博士後期課程)において、公衆衛生関連領域の教育・研究に関する深い健康科学講座が1つになり、**パブリックヘルスプログラム**を立ち上げた。
- 公衆衛生に関する教育研究を、修士課程(専門職)から博士後期課程までシームレスに行うことを目的とする。

25

健康科学・看護学専攻(博士後期課程) パブリックヘルスプログラムの構成



26

パブリックヘルスプログラムへの 入学が想定される者

- 公衆衛生学修士課程修了者
 - 本学医学系研究科公共健康医学専攻(専門職学位課程)
 - 他学公衆衛生大学院専門職修士・修士課程修了者
- その他の修士課程修了者
 - 本学、他学を問わず
- 修士号取得済みの社会人経験者

27

パブリックヘルスプログラム各分野の概要(1)

分野名	教員	研究内容
社会予防疫学	佐々木敏教授	栄養疫学、公衆栄養学、社会予防疫学
保健医療情報学	大江和彦教授	医学知識ベース、病院情報システム、電子カルテ
医療コミュニケーション学	木内貴弘教授 石川ひろの准教授	ヘルスコミュニケーション、メディアコミュニケーション 患者-医療者間コミュニケーション、医療面接教育、患者教育
医療倫理学	赤林 朗 瀧本慎之	生命・医療倫理学全般(様々な人文・社会科学的方法論を用いる)、臨床倫理、研究倫理、看護倫理、保健・医療行政、保健・医療経済 医療倫理学、臨床倫理、臨床倫理コンサルテーション、意思決定プロセス
健康増進科学	—	(募集なし)

28

パブリックヘルスプログラム各分野の概要(2)

分野名	教員	研究内容
健康学習・教育学	橋本英樹教授	社会・経済・文化的要因と健康との関連に関する社会行動学的研究を広く含む
健康社会学	近藤尚己准教授	健康の社会的決定要因に関する疫学研究
精神保健学	川上憲人教授	地域における精神障害の疫学、職場のメンタルヘルス、災害・国際精神保健
生物統計学	松山 裕教授	生物統計学、医学研究の計画と医学データ解析、臨床試験の方法
疫学・予防保健学	松山 裕教授(兼) 大庭幸治准教授	疫学、疫学研究の計画と解析、理論疫学 疫学、疫学研究の計画と解析、メタ・アナリシス
精神保健政策学(連携講座)	金吉晴連携教授 西大輔連携准教授	心理的トラウマ、災害精神保健、疫学、バイオマーカー、支援制度、政策、治療 精神保健疫学、うつ病・PTSD の予防、栄養精神医学、産業精神保健、レジリエンス、外傷後成長

29

パブリックヘルスプログラム 博士(保健学)取得修了後の進路

- 研究分野によって異なる。
 - 多くは、大学(教員、研究員)
 - 国公立研究所、民間研究機関
 - 医療機関
 - 国際機関(国連、世銀)
 - 民間企業(製薬企業、シンクタンク)
 - NPO/NGO

30